

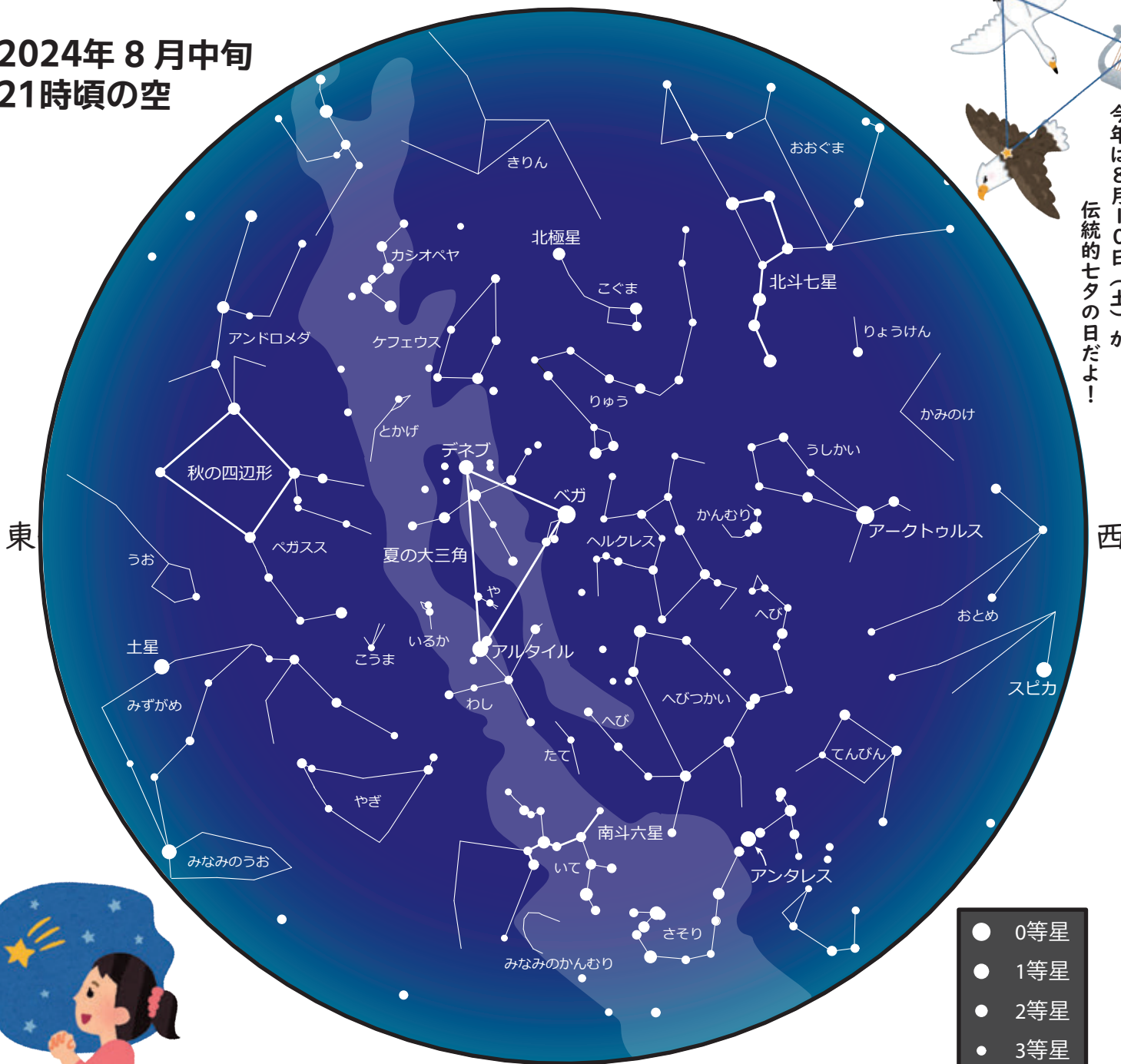
# 阿南市科学センター 8月の星空案内

北

2024年8月中旬  
21時頃の空



今年は8月10日(土)が  
伝統的七夕の日だよ!



南

夏本番となってきた8月。夜空を見上げると頭上にはこと座の**ベガ**(0.0等)、わし座の**アルタイル**(0.2等)、そしてはくちょう座の**デネブ**(1.2等)をつないでできる**夏の三角形**が輝いています。南の空では黄道十二星座のうち二つ、**さそり座**という座が見ごろになってきました。さそり座の目印は赤い1等星**アンタレス**(1.1等)。赤い星といえば、地球と同じ惑星の仲間、火星があります。アンタレスという名前には火星の敵、火星に似た星という意味があります。北の空にひしゃくの形をした星の並びである**北斗七星**があるのに対して、南の空にもひしゃくの形をした星の並び、**南斗六星**があります。この南斗六星はいて座の一部で、いて座を見つける時のカギになってくれることでしょう。下旬になると、東の空、みずがめ座のあたりに明るく輝いている星があれば、それは**土星**(0.7等)です。8月では下旬の天体観望会から21時の回でのみ、土星を観察することができます。

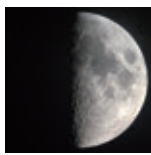
天体観望会のご予約はネットかお電話にて 【毎週土曜日開催!】

阿南市科学センター 電話 0884-42-1600 <http://ananscience.jp/science/>

# 8月の月の満ち欠けと惑星について



新月  
4日



上弦  
13日



満月  
20日



下弦  
26日

8月の天体観望会で月が見える日時は？



8/17(土) 20時、21時の回に可能

水星：初旬に日没後西のごく低空に見える。19日に内合。【約1.1等】

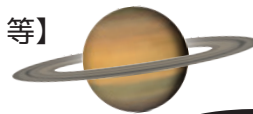
金星：夕方西のごく低空に見える。【約-3.9等】

火星：深夜に東の空から昇り、夜明け前まで見える。【約0.8等】

木星：深夜に東の空から昇り、夜明け前まで見える。【約-2.2等】

土星：前半夜から一晩中見ることができる。【約0.7等】

※惑星の等級は中旬頃の明るさ。水星のみ初旬の明るさ。



観望会で土星を見るには  
下旬以降の21時の回が  
おすすめです★



## 今月の天文現象

### 【ペルセウス座流星群が極大】

2024年のペルセウス座流星群は12日の23時頃にピークをむかえます。今年は前半夜に月が沈む為、深夜から13日未明にかけて好条件で観測することができ、暗い所だと1時間に数十個ほどの流星が期待できます。

流星群は放射点から四方八方に流星が流れるため、いつでも現れるか誰にも分かりません。観測のポイントは、しっかりと目を暗さに慣れさせてから、空が開けた場所で、空全体を見渡すことです。レジャーシートを敷いて寝っ転がりながら観測すると楽しく楽に観測できますよ。

科学センターでは12日の20時から22時まで流星群の観測会を行います。ぜひレジャーシートを片手に足を運んでみてくださいね。

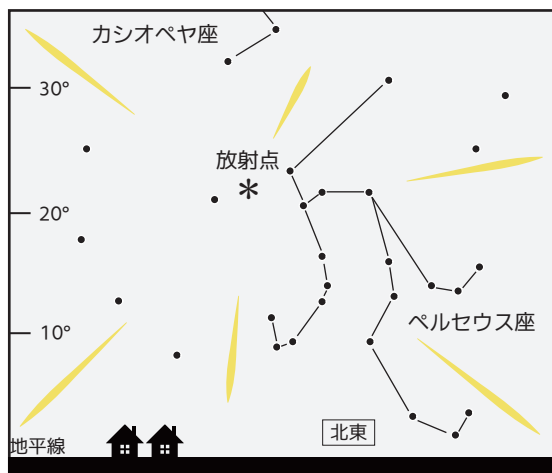


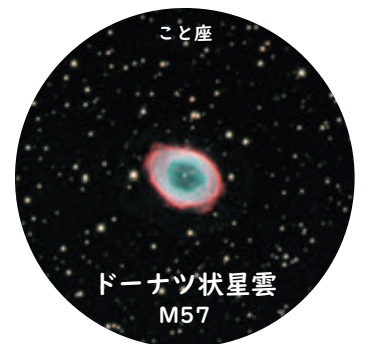
図1: ペルセウス座と放射点の位置  
(8月12日23時の夜空)

## おススメの観察対象

### 【夏に観察しやすい惑星状星雲】



まばたき星雲  
NGC6826



ドーナツ状星雲  
M57



キャッツアイ星雲  
NGC6543



土星状星雲  
NGC7009

図2: 四国最大の望遠鏡で撮影した惑星状星雲たち (by K. Imamura)

夏の夜空には様々な星雲・星団があります。その中でも「惑星状星雲」という種類の天体は、望遠鏡（眼視）で観察しやすい対象です。惑星状星雲は太陽に似た質量を持つ恒星の寿命を迎えつつある姿だと考えられています。惑星状星雲の中心部には恒星が輝き、そこから星を作っていた水素などのガスがじわじわと宇宙空間に放出され、これが星雲を形成しています。この種の天体は様々な形状をしており、なぜこのような形になるのか、天文学の研究の対象にもなっています。